

【近畿農政局長賞：地域の平均単収からの増収の部】 なかじま えいぞう 中嶋 栄三（滋賀県東近江市）

品種	作付面積	単収	地域の単収との差（地域の平均単収）
北陸193号	約0.7ha	806kg/10a	273kg/10a（533kg/10a）※ ※作況補正後の地域の平均単収

【経営概況】

- 家族4人（本人、妻、息子夫婦）で農業を経営する兼業農家。
- 水稻、果樹栽培で、経営面積約3.9ha

【作付品目】

- ・主食用米：コシヒカリ、ミルキークイーン 約2.8ha
- ・飼料用米：北陸193号 約0.7ha
- ・果樹（梨）等 約0.4ha



【取組のきっかけ】

- 所有する水田は排水性が悪く、麦・大豆等の栽培に適さない粘土質であったため、27年産までは主食用品種で米粉用米の生産に取り組む。
- 平成28年産から、出荷先の商系事業者（米・資材卸）の薦めもあり、倒伏に強く、多収である北陸193号の栽培に取り組む。

滋賀県



【取組概要】

- 所有する水田は粘土質で水持ちが良い特性を生かし、収穫前まで落水を行わないことにより未熟粒、胴割粒、碎粒の発生を防止。さらに品種特性を踏まえた生育期間を確保し収量を増加。
- 主食用米と収穫期の異なる品種を作付け、収穫作業のピークを分散。1台の収穫機械を効率的に使用。
- 施肥は、元肥を田植と同時に施用（52kg/10a）のみ。追肥作業を省略し労働時間を削減。
- 病虫害防除は省力化のため、育苗箱施用（いもち病、イネミズゾウムシ被害等）と8月中旬の虫害防除（カメムシ被害）の2回に削減。
- 土づくりは、プラウによる反転鋤込み・深耕（50cm）を行い、地中に残っている有機物・肥料等を活用し環境を改善。